



患者目線の診察・治療を心がけ “見える喜び”を提供する

杉田 こちらは開業されたばかりだそうですね。竹尾院長はどういった経緯で医師を目指されたのですか？

竹尾 最初に入学した大学で、訪問団としてペルーを訪れる機会がありました。その時に同行した医学部生が、現地で怪我人に迅速で細やかな対応をしているのを見て、初めて医師という仕事に興味を持ったんです。そこで当時の私は法学部にいたのですが医学部に入りなおし、医療の道に進みました。

杉田 様々な科がある中で、眼科を選ばれたのは何か理由が？

竹尾 私は3歳の時、片目の視力が発達しておらず、国立小児病院（現：国立成育医療研究センター）に通っていました。斜視・弱視という状態でしたが、担当の先生の適切な診断と弱視トレーニング（毎日眼鏡をかける）という治療のおかげで、視力をきちんと発達させることができました。先生には今でもとても感謝していますし、その経験から私も眼科医として様々な患者さんの治療にあたり、役に立ちたいと考えた次第です。

杉田 ご自身の実体験が深く影響しているのですね。眼科医としてのやりがいはいかがですか。

竹尾 眼科では白内障の手術をすることがあるのですが、当初「見えなくなった」と嘆いていた患者さんが、術後には「す

たけお眼科

〒 212-0058
神奈川県川崎市幸区鹿島田 1-1-3
新川崎スクエア 3F
TEL 044-201-7226
URL <http://www.takeo-ganka.com/>

Company data

院長

竹尾 悟

東京都内の大学の法学部に在籍するも、22歳の時に千葉大学医学部へ転入。卒業後は横浜市立大学医学部眼科へ入局する。その後、横浜市民総合医療センターや横浜市立みなと赤十字病院、藤沢市民病院などでの勤務を経て、2015年3月に地元・川崎市に「たけお眼科」を開院。



ごくよく見えるようになった」と喜ばれるんです。そんな風に、“見える喜び”を患者さんに感じてもらえることが一番のやりがいですね。

杉田 感動的な瞬間に立ち会えるお仕事でもあるんですね。業務の際に心がけていることについてもお聞かせください。

竹尾 当院ではサービス業としての側面を大切に、患者さんの目線やニーズに合った運営を心がけています。その1つとして、当院は土日も診療をしています。最近では共働きで、土日しか子どもを連れて来られないというご家庭が増えていますので、私たちがそうした方々の受け皿になれたらと思っているんです。またホテルをイメージした内観にしたり、診察の際にはなるべくソフトな口調で、専門用語は極力使わず分かりやすく説明したりと、患者さんに心地よく通院して頂

けるような心配りも欠かしません。

杉田 それは患者さんにとって嬉しい配慮ですね。今後はどのような院にしていきたいとお考えですか？

竹尾 子ども用のテレビを置いて子ども向けのDVDを見られるようにするなど、病院を少しでも楽しく過ごせる場所にしていきたいと思います。そして一人でも多くの患者さんに親しまれ、将来的には自分の子どもがそのあとを継ぎたいと思ってくれる、そんな院にしていきたいですね。



Guest Comment

杉田 かおる (女優)

竹尾院長は誠実で柔らかな印象をお持ちの方なので、患者さんも目に関する様々なことを気軽に相談できると思いました。またこちらは駅からすぐの商業施設内にあり、立地もとても良いので、これから院長を頼りに通われる方もきっと増えていくはずです。



▲ ホテルのカウンターを思わせる洗練された受付。内観は明るく、落ち着いた印象だ